

10周年記念第11回全国大会・研究発表大会開催報告

篠沢佳久（大会実行委員長 慶應義塾大学）

去る11月21日（土）、22日（日）に慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎におきまして第11回全国大会・研究発表大会を開催致しました。情報システム学会は、情報システムの新しいあり方、情報システム学の構築を目指すべく、産業界、学界の方々が研究、議論、交流する場として2005年4月に発足致しました。多くの方々のご協力のもとで、本年度、設立10周年を迎えることができました。そこで、情報システム学の提唱者でもあります浦昭二先生（慶應義塾大学名誉教授）とつながりの深い慶應義塾大学にて10周年記念第11回全国大会・研究発表大会を開催するはこびとなりました。慶應義塾大学におきましては2008年度第四回全国大会・研究発表大会に続き、二度目の開催となります。

特に本大会におきましては、大会テーマを「情報システムによる社会の革新を目指して～人間中心の情報システム再考～」として掲げ、これまで構築してきた人間中心の情報システム学をもとに、今後、情報システム学のさらなる発展を議論すべき大会と致しました。

大会一日目には、一般発表32件の研究報告が行なわれました。また徳田英幸氏（慶應義塾大学環境情報学部）ならびに石戸奈々子氏（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科）をお招きし、徳田氏より「IoT/CPS とソーシャルオープンデータによるスマートシティの創出」、石田氏より「デジタル時代の子どもたちの学びの場を創る」という演題にてご講演いただきました。

そして大会二日目には、新情報システム学体系調査研究委員会による「新情報システム学序説チュートリアル」他、研究会報告が合わせて3件、ならびに超上流工程における要求分析への科学的アプローチ研究会によるワークショップも行なわれました。

またこの日行なわれました10周年記念表彰式におきましては、これまで10年間、学会の発展に特に貢献されてきた34名の会員の方々に、終身名誉会長の北城格太郎氏より表彰盾が授与されました。

以上、二日間に渡って開催されました本大会には、学界、企業から100名の皆様にご参加いただき、人間中心の情報システム学における企業での経験や事例、学術的、萌芽的なアイデアなどをご討議する場とすることができました。本大会を開催するにあたり、有限会社PJI様をはじめ、多くの方々のご後援を賜りました。この場をおかりしてあつく御礼申し上げます。